

Rising sun

朝日町学力向上推進委員会



朝日町学力向上推進委員会では、平成28年度全国学力・学習状況調査の教科及び質問紙調査の結果から、朝日町の小学校6年生と中学校3年生の学習の成果や課題、学習意欲、学習環境等の実態について話し合いました。

そこから見えてきた児童生徒への指導の参考となる取組やポイント等を提案します。



< 総括 >

教育のプロとして

委員長 竹内 康彦

「踏むな、育てよ、水そそげ」 この言葉は、知的障害施設八幡学園の創設者である久保寺保久先生の遺訓であります。八幡学園には、「放浪の画家」、「裸の大將」として世に知られた山下清氏も在籍していたことがあり、学園の指導方針で始めた「ちぎり紙細工」でその才能が開花したことはよく知られています。

平成28年3月、県の新規採用教職員辞令交付式が行われ、渋谷克人教育長の訓辞の中にもこの言葉が引用されていました。「すべての子どもたちには大きな可能性があり、それを見つけ、将来の道を拓くことができるよう、そうした指導力を持った先生方であってほしい」これは、324人の新規採用教職員への訓辞ではありますが、本県で教育に携わる全ての教職員に対する願いであると考えます。

学校は教育の専門機関であり、そこで働く教職員は一人残らず教育の専門職員です。いわゆる「教育のプロ」なのです。このことを深く自覚し、目の前の子どもたちの可能性を開花させるために、謙虚に学び続ける姿勢が必要です。

平成27年度全国学力・学習状況調査の結果から、「学級やグループでの話し合いなどの活動で、自分の考えを深めたり、広げたりすることができるか」や「自分には良いところがあると思いますか」、「学校の規則を守っていますか」について、肯定的な回答の方が平均正答率が高い状況であったと報告されています。

このことから、学級内に自分の居場所があり、安心して自分の考えを発表したり、互いの意見を共感的に理解し合ったりすることのできる温かい人間関係をつくるのが有効な学力向上策であることは明らかです。

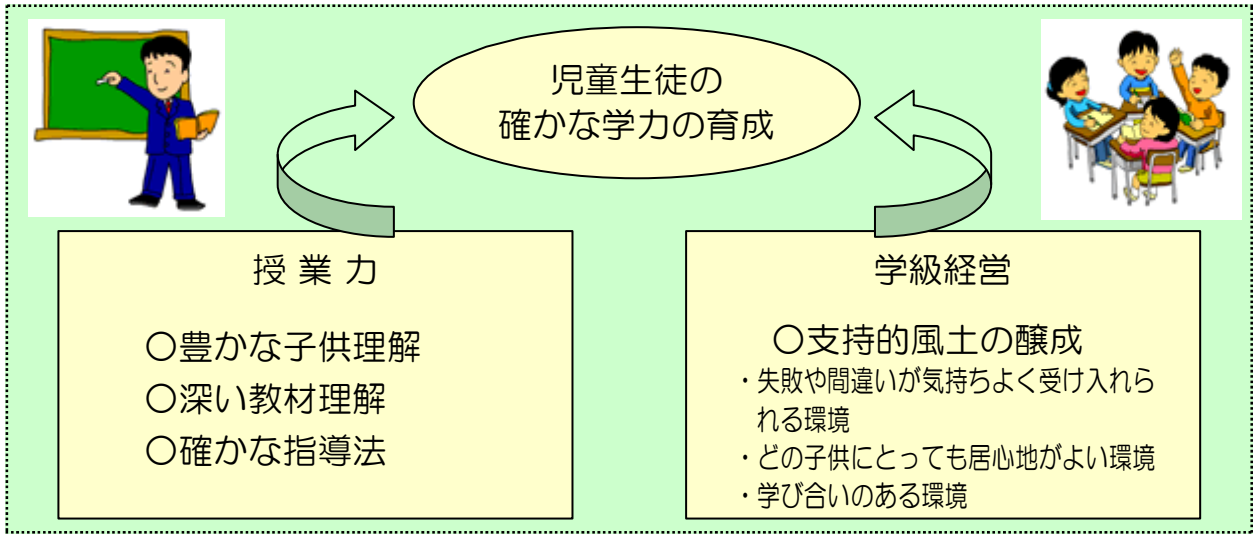
町内小中学校では、子どもたちの学級生活の満足度や学級集団の雰囲気を示す指標として「Q-U」検査を実施し、その結果を分析して必要な対応策を講じることにより、学びを支える集団づくりに努めています。また、町内小中学校連携の統一した学習規律を「あさひスタンダード」として共有し、継続して指導することで、学習規律の確立に取り組んでいます。このような取組が多様な学びを支える集団をつくり、児童生徒が学びに向かう力を育成していると考えます。

全国学力・学習状況調査は、都道府県間や学校間の優劣を競うために行うのではなく、これまでの学習指導の在り方を検証し、これからの指導方針を明確にすることが目的です。ぜひ、教育のプロとしての確かな眼で調査結果を分析し、実態に応じた的確な指導に繋げていきたいものです。

着実に成果は上がっています。これまでの取組に自信を持って、これからも地道に頑張っていきましょう！

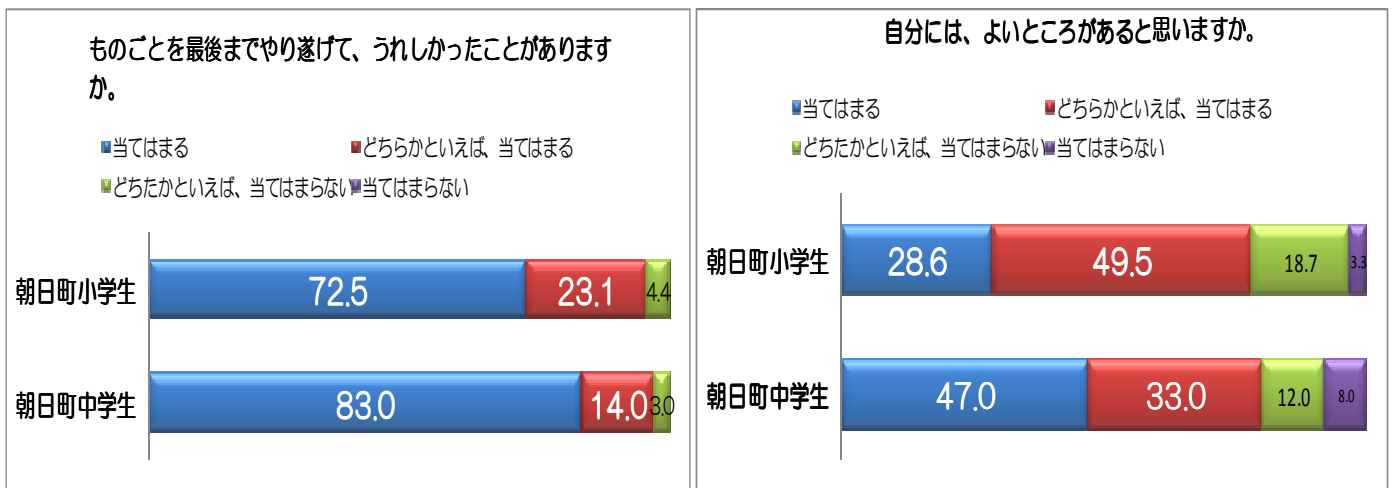
< 朝日町小中学生の児童生徒質問紙から >

「教師は授業で勝負する」と言われるように、私たち教員は「授業力」が求められます。授業を実践する授業力を直接指導としたら、間接指導は、温かい学級、支持的風土が整った良好な学級経営だと言えます。



今年度の全国学力・学習状況調査の質問紙の結果を見ると、「ものごとを最後までやり遂げて、うれしかったことはありますか」という質問に対して、朝日町の小学生は95.6%の児童が、中学生は97.0%の生徒が「当てはまる・どちらかという当てはまる」と回答しています。このことから、児童生徒は学校や家庭での生活を通して、成就感や一体感を味わうことができていると考えます。

「自分にはよいところがありますか」という質問には、小学生は78.1%の児童が、中学生は80.0%の生徒が「当てはまる・どちらかという当てはまる」と回答しており、自尊心が高いといえます。一方では約20%の児童生徒は自尊心が低く、自分に自信がないとか、人からほめられても素直に喜べないと感じていると考えます。



このような児童生徒には、「ありのままの自分でいい」「自分はかけがえのない存在だ」と実感できる経験を積ませてあげることや、「正しいことをすることは、格好いいことだ」などの正論が受け入れられる、支持的風土が整った学級で生活できるようにすることが必要です。

これらのことから、朝日町学力向上推進委員会では、今年度の学力向上策として、温かい学級、支持的風土が整った良好な学級経営を目的として、そのための授業づくりや学級づくりの取組やポイント等を提案します。

＜温かい学級、支持的風土が整った良好な学級経営につながる
授業づくり、学級づくりの取組・ポイント＞

1 ペアトーク・オープンクエスチョンの活用



▼グループ学習の効果

ペアトークを取り入れ、交流することで、「話したい。聴いてほしい。」という子供の思いが満たされます。また、「発表する機会を増やす」「少人数にすることで発表することに対して抵抗を少なくする」などの効果があります。

また、人間関係づくりの視点からみると、学級の人間関係をよりよくしていくための方法として、「班」（ペアなどのグループを含む）による活動は効果があると示されています。班活動の割合が全体の20%で、孤立する児童が大幅に減少するとのこと。

ただ、多く取り入れたらよいというわけではなく、効果は図のように20%を超えるとあまり変化はないです。

ペアトークやグループなどでの話し合いは、児童生徒の協働・交流につながる効果的な活動だといえます。（引用論文 鳥海、石井「学級集団形成における教師による介入の効果」）

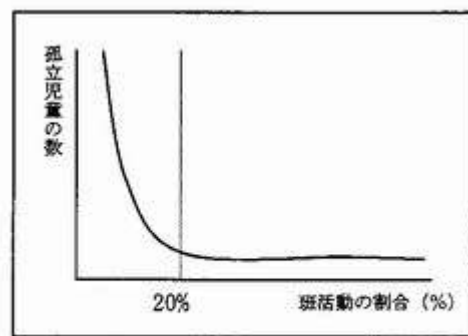


図 班活動の割合と孤立児童の数

▼ペアトークを効果的に取り入れるために

話し合いが盛り上がる時は、授業も深まります。児童生徒が「話したい」という気持ちを抑えきれずに、目を輝かせてとなりの子に自分の考えを伝えようとします。ぜひ活用したいペアトークの事例を紹介します。

① 教師の話が理解できたかどうか確認する場面で

「先生が言った3つのことをペアで伝えてください。」

▽ このとき、先生は「1つ目は～、2つ目は～」とナンバリングを付けて伝えると、児童生徒も分かりやすいです。

② 友達の意見を再現する場面で

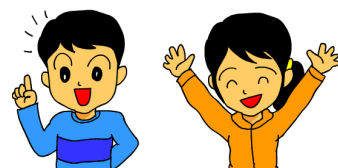
「～さんが言ったことをペアでもう一度言ってみましょう。」

▽ 友達の発言をもう一度ペアで言うことは、大事な説明を繰り返して発言することになり、理解につながります。

③ 友達の意見を要約する場面で

「～さんが言いたかったことは。」

▽ 友達の話をまとめる練習になります。併せて、話す力だけでなく聴く力を高める活動になります。



▼このような実践が行われています【人間関係づくりを目的としたペアトークの実践：町内小学校】

① 「朝・帰りの会での1分間トーク」

○ 相手に、1分間トークを聞いてもらいます。

▽ 話すことが苦手な子供には、「～というത്?」「～それで?」などの相槌をして、相手の話を引き出すように関わり、1分間話せるように支援します。

▽ ペアは、毎日変えていき、クラス全員とトークをします。

○ <成果> 話すことに苦手意識をもっている子供が回数を重ねるにつれて、話すことに慣れてきました。普段、話さない子供同士のかかわる場となり、互いを知る機会となっています。

(実践例は次頁に続きます)



② 「話し合いでのオープン・クエスチョンの活用」

○ 子供たちがファシリテーター（進行役）1人とサイドワーカー（よき参加者）数人に分かれ話し合います。

ファシリテーターは、「～というところ?」「どんな感じ?」など、オープンクエスチョンで会話を引き出します。



○ オープン・クエスチョンの効果

▽ 話し手は自由に回答することができます。そのため相手から幅広い答えを引き出すことができるので会話が盛り上がります。

▽ 相手に考えを深めて欲しいときにも活用でき、質問をされた方は新たな気づきが生まれます。

▽ 自分では考えていなかったようなことを考えるきっかけになります。

▽今年度の朝日町小中学校教育講演会において、講師：岩瀬直樹先生から指導していただいた「質問の技カード」を紹介します。

質問の技カード

< 深め、広げる質問 >

○オープン・クエスチョンの例

- 1 ~というところ?
- 2 どんな感じ?
- 3 もう少しくわしく教えてください
- 4 例えば?
- 5 具体的にどんな感じ?
- 6 どんなイメージ?
- 7 エピソードを教えてください
- 8 ほかに?

○あいづちの例

- 1 うんうん
- 2 なるほど、なるほど
- 3 わかる、わかる
- 4 そうなんだ
- 5 へえ
- 6 だよねえ
- 7 それで、それで
- 8 そっかあ

○クローズド・クエスチョンの例（はっきりする質問）

- 1 数量を聞く（日時、回数、価格等、数字で表すこと）
- 2 名前を聞く（人名、商品名、場所などの固有名詞）

○自己選択、自己決定を問うときの質問

- 1 どうしたい?
- 2 どうなったらいいと思う?
- 3 （選択肢の中から）どれだと思う?

・岩瀬先生からの助言

○このページをコピーして、ラミネート加工して使ってください。

○机の中にいつも入れて、毎日、見ながら練習します。

引用文献 岩瀬直樹・ちよんせいこ著 解放出版社
「よくわかる学級ファシリテーション①かわりスキル編」

2 ホワイトボードの活用

▼ホワイトボード活用の効果

「思考の可視化ができる」、これがホワイトボードの一番の効果です。このことに関連して次の効果があるといえます。

① 誰でも気軽に使う（書く）ことができる

- ▽ ノートに書くよりも気軽に文字を書くことができます。
- ▽ 色使いを変えることで意見や考えを分類できます。さらに分類やつながりなどの加筆修正が簡単にできるので、話し合いがぶれにくく、まとめやすいです。



② 話し合いの整理に役立つ

- ▽ 互いに考えをもちより、ホワイトボードに書き込む（音楽科のリズムづくりでの活用事例）ことで、意見や考えを共有することができます。その上で話し合いが進むので、話がぶれません。

③ 互いに認め合う関係をつくる

- ▽ どの人（児童生徒）の意見や考えもホワイトボードに書き込むので、互い（の考え）を認め合う人間関係が醸成されます。

④ 情報を共有できる

- ▽ グループで練り上げた考えや情報をホワイトボードに書き込み提示することで、クラス全体で共有できます。

▼このような実践が行われています【ホワイトボードを活用した授業の実践：町内小中学校】

考えを可視化して共有することや意見交換をする際のツールとして活用されている事例を紹介します。

◎小学校

- 理科 ・ 星座の動き方や電池のつなぎ方を示す図を書いて話し合います。
- 算数科 ・ 問題の計算の仕方や考え方、説明などを書いて話し合います。
- 音楽科 ・ リズムづくりで活用しています。
- 体育科 ・ チームの作戦ボードとして活用しています。



（理科でのホワイトボードの活用事例）

◎中学校

- 国語科 ・ 小説の学習では登場人物の相関図を、作文の学習では批評等を書いて話し合います。
- ・ 討論では、Aの考え、またはBの考えをなぜ選んだのか、その理由を書いて話し合います。
- ・ 文学作品の解釈や一部虫食い箇所の中身を想像する学習で活用しています。

▼これまで、町内小中学校で取り組んできたホワイトボードを活用した授業実践の成果と課題について考察しました。

○ <成果>

- ▽ ホワイトボードを囲んで、意見交換をしながら書き込むことで、考えを共有することやそこから新たな考えを見つけること、自分の考えに自信をもつことなどができています。
- ▽ 3、4人の少人数でホワイトボードを囲んで話し合うので、傍観者になる子供はほとんど見られなくなりました。
- ▽ ホワイトボードは、ノートよりも手軽に書いたり消したりすることができるので、互いの意見やアイデアをスムーズにつなげたり、まとめたりすることができています。



○ <留意点>

- ▼ ノートのように、学習の足跡が残せません。必要なときは画像で残しています。
- ▼ 使うときの約束（協力し合う、見やすく書くなど）を十分に指導することが大切です。

☆ 他にもホワイトボードは、このように活用されています。

- ▽ 屋外で行う体育や校外学習等で、児童生徒に説明することを可視化するために、移動用ボードとして活用されています。

3 プロジェクト・アドベンチャーの活用

学習指導要領特別活動 学級活動の内容には、小学校は「望ましい人間関係の育成」、中学校は「望ましい人間関係の確立」が示されています。

併せて、社会的スキルを身に付けるための活動（小学校）、自己表現力やコミュニケーション能力を高める体験的な活動（中学校）を効果的に取り入れることなどが示されており、学校生活において、信頼・尊敬・親愛・協力などの温かい人間関係を育成することが求められています。



このような共感的な人間関係を築くための教育相談的手法を紹介します。

活動名	目的
構成的グループエンカウンター	・集団場面において、人と人との交流を通して温かな人間関係を体験する。
ソーシャルスキルトレーニング	・良好な人間関係をつくるための知識・技術・こつなどを場面を想定した体験を通して身に付ける。
プロジェクト・アドベンチャー	・グループ活動を通して、チームワークや自己・他者への気付きを深め、信頼関係を構築する。
アサーショントレーニング	・自分も相手も大切にしたい自己表現を体験を通して身に付ける。
アンガーマネジメント	・自分の怒りに対する理解を深め、適切な表現方法を身に付けるとともに、衝動的な行動を予防する。



これらの活動は、開発的な教育相談として、児童生徒の実態に応じて効果的に活用することが大切です。

次に、町内小学校で実践されている「プロジェクト・アドベンチャー」の事例を紹介します。

▼プロジェクト・アドベンチャーとは

人の器を大きくすることを目指し、人の成長を目指すプログラムです。人は様々な気づきを経て成長します。人が成長するためには「信頼関係」がなにより大切です。

信頼関係は学習の環境としても大切なもので、気持ちが閉じられたままでは成長のための気づきは生まれません。時には、自分の限界を超える挑戦をすることも成長のためには必要です。

そのような挑戦を支えてくれるのが仲間であり、そこで生まれる気づきを成長に導くのがプロジェクト・アドベンチャーといえます。

(引用文献 プロジェクト・アドベンチャー ジャパン hp)

▼このような実践が行われています【プロジェクト・アドベンチャーを活用した授業の実践：町内小学校】

学級活動

- 題 材 「さらに深めよう〇〇名の絆 ～協力・思いやり・信頼～」
- 題材目標 活動を通して、思いや考えを伝え合い、よりよい人間関係を築くことができる。
- アクティビティ「惑星旅行」(フープの中に両足が入ればOK。フープが1つか2つになるまでみんなでチャレンジします)
- 児童の振り返り(感想)

話しかけ易かった。

達成できてうれしい。

競争の時の負けはくやしいけれど、協力した時の負けは、負けても楽しい。



アクティビティ
「惑星旅行」

女子だけかたまっていたけれど、最後のほうになると男女関係なくみんなで協力できた。

あの人、嫌だとか言わずに、どんどんしゃべって男女仲よくなりたい。



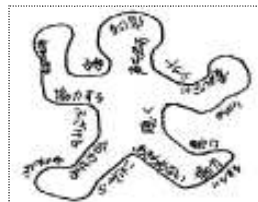
振り返り

- <成 果>
 - ▽ 活動を通して仲間を気遣う言葉や行動が見られました。振り返りの話し合いでは、協力することの大切さを実感していた感想が多かったです。
 - ▽ 活動後は教室の雰囲気もよく、グループ活動がスムーズに進んでいます。
- <留意点>
 - ▽ プロジェクト・アドベンチャーでは、活動だけでなく振り返りが大切です。どうして課題を解決できたのか、このことを子供たちで考えて見つけることができました。それを日常でどう生かしていくかを考えさせることも必要です。(活動→振り返り→一般化)
- こんな時もお勧めします!!
 - ▽ 学級の目標を決める → ビーイングの活用
 - ▽ 男女の仲をよくしたい、人間関係が固定化している場合など → 体を使った協力し合うアクティビティ
 - ▽ 定期的に行うとよいと思います。お勧めします。

※ビーイング

模造紙等にグループを象徴するふさわしい絵を描きます。(誰かに横たわってもらい、その人型を縁取るなど)その絵の中に、課題達成のために自分が心掛けること、他の人にされたくないことなどを推進的な言葉や肯定的なフレーズで書き込んでいきます。

グループやクラスのみんで作ったビーイングが、この活動のルールになります。



「あさひスタンダード（確立させたい学習規律）」、「授業に関するアンケート」にご協力いただき、ありがとうございます。結果を報告します。

○ 数値は、アンケートの「よくしている」「まあしている」を合わせた「している」の回答の割合です。

あさひスタンダード（確立させたい学習規律）についてのアンケート

小学校

児童は学習の準備を整え、授業に臨んでいます。

先生から見た、児童の学習規律に関する評価は厳しくなっています。

学習準備：必要な物が机の上に整理されて置いてある。

時間を守る：ベルとともに授業が始まる。

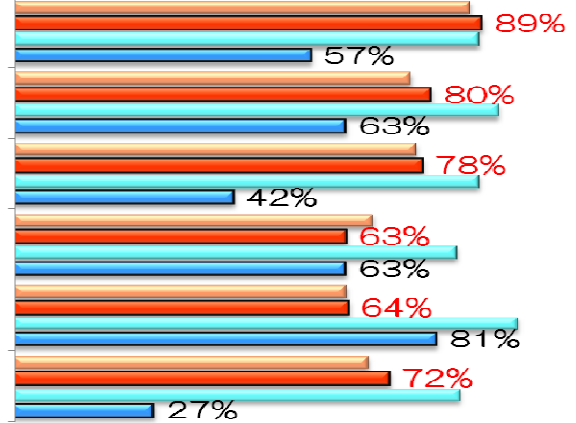
話の聴き方：していることを止める。話す人に体を向ける。相手の目を見る。

ノートの書き方：指示に応じて板書等を丁寧に書く。

提出物：丁寧に作成し、期限を守る。

話し方：相手に伝わるような声量・速さで話す。

0% 10% 20% 30% 40% 50% 60% 70% 80% 90% 100%



■ 小学校児童(7月) ■ 小学校児童(11月) ■ 小学校先生(7月) ■ 小学校先生(11月)

中学校

生徒、先生ともに、学習準備やベル着など、学習規律への意識が高いです。



学習準備：必要な物が机の上に整理されて置いてある。

時間を守る：ベルとともに授業が始まる。

話の聴き方：していることを止める。話す人に体を向ける。相手の目を見る。

ノートの書き方：指示に応じて板書等を丁寧に書く。

提出物：丁寧に作成し、期限を守る。

話し方：相手に伝わるような声量・速さで話す。

0% 10% 20% 30% 40% 50% 60% 70% 80% 90% 100%

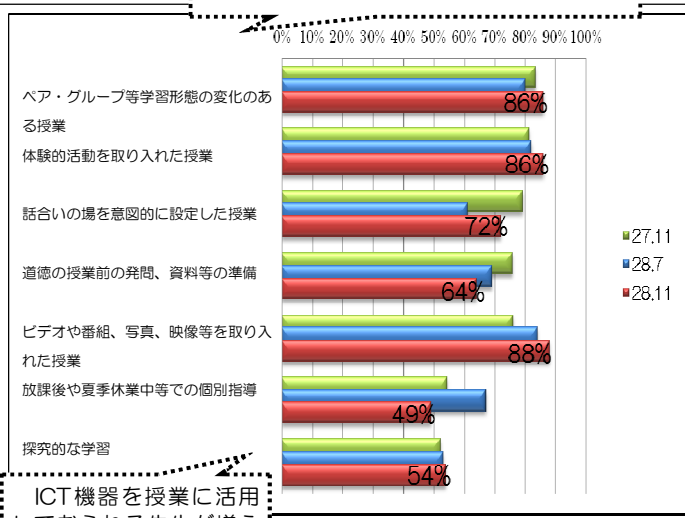


■ 中学校生徒(7月) ■ 中学校生徒(11月) ■ 中学校先生(7月) ■ 中学校先生(11月)

授業に関するアンケート

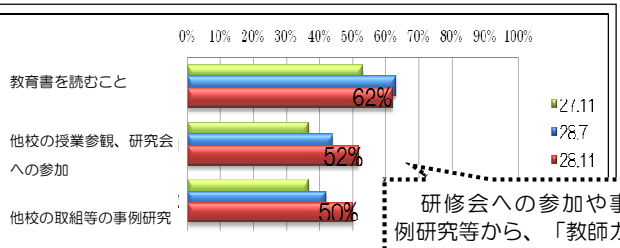
授業の取組

ペアやグループ等を取り入れ、児童生徒同士で学び合う学習が実践されています。



ICT機器を授業に活用しておられる先生が増えています。

教師力を高めるための取組



研修会への参加や事例研究等から、「教師力UP」に努めておられる先生が増えています。

朝日町学力向上推進委員会

▽委員長 竹内 康彦

▽国語科担当

伊藤 美静 水島真寿美 阿部 伸彦

▽算数・数学科担当

上野 裕美 山田 智徳 舟本 麻衣